

教育センター学びの丘長期研修員研修における学びについて

紀の川市立中貴志小学校

教諭 雑賀正登

「教育センター学びの丘長期研修員の概要について」に示した研修の概要を基に、一年間の学びについての所感を述べる。

修養では、学び続ける教員としての在り方を学んだ。様々な研修講座では、新しい角度から教育について学ぶことができた。加えて、研修員研修では、主体的・対話的で深い学びについての理解を深め、学習指導要領（平成 29 年告示）の方向性を把握することができた。様々な教科・分野を学び、それらで得た複数の知識がつながることで、学ぶことの喜びや楽しさを実感した。

研究では、学習指導要領の改訂に伴い小学校算数科において「D データの活用」領域が設けられたことについて、児童に付けるべき資質・能力を定着させるための単元構想や教師の手立ての大切さを感じ、算数科の授業づくりについて深く考えることができた。提案授業では、統計的探究プロセスに沿った授業展開により、児童が問題解決の過程を振り返ったり、データを批判的に見ることができるようになったりし、児童に力が付いていると実感することができた。付けたい力を明確にした授業づくりは、他教科においても同様であると考えている。

この1年間を通して、共に学び、意見を出し合った研修員同士の関わりにより、互いを刺激し合える仲間ができたことが何よりの財産と感じている。考えたことやアイデアを出し合う過程を通して、共に考える中でしか学べないことがあると実感した。今後は、学校全体で円滑な意見の交流ができるよう、ミドルリーダーとして職員間の架け橋となるように努めていきたいと思う。

